

RES240 社会調査論

2年 3,4クォーター

担当教員 伊藤 勇, 田中 志敬

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 月曜日・3時限

授業概要

調査票を用いたアンケート形式の社会調査の方法や実際、留意点について、(1)調査テーマの設定、(2)調査設計、(3)実査、(4)調査データの整理、(5)データの集計と分析、(6)報告書の作成・公表の各段階に即して学ぶ。取り上げる主な項目は、問題関心の明確化、リサーチ・クエスチョンから調査項目へ、調査対象と調査方法の決定、サンプリングの考え方と方法、調査票・質問文の作り方、調査票の配布・回収、調査データの整理と分析、知見の文章化・図表化、社会調査の倫理など。

(伊藤勇/10回)社会調査における調査票調査の位置づけについて基本理解を得た上で、調査の企画・設計から報告書の公表までの各段階に即して、上記の項目に関する一般的標準的な考え方や技法を学ぶ。

(田中志敬/5回)都市コミュニティ調査の実例に即して、調査票調査の企画や設計の進め方、実査の留意点、知見の導出の仕方、調査対象地・協力者との関係の取り方などについて、より具体的で現実的な学習を行う。

到達目標

- ・調査票を用いたアンケート形式の社会調査の方法について基本的理解を得る。
- ・社会科学における実証的な調査研究の意義・役割を理解する。

先修科目

- ・リサーチ入門 I
- ・統計入門
- ・国際地域概論
- ・社会学概論

教科書・参考資料等

教科書：大谷信介ほか『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房，2013年。

授業の方法

講義形式の授業だが、一方通行の授業を避けるため、受講者全員に毎回短い感想メモを提出してもらう。

成績評価

成績評価には、①毎回提出する授業の感想メモ、②中間テスト、③期末レポート、計3種類の提出物を用いる。

成績

修学態度 (①)	20%
中間テスト (②)	30%
期末レポート (③)	50%

授業スケジュール

第1回： ガイダンスおよび序論

授業の概要・進め方・成績評価法の説明

序論：社会学の理論・学説と実証的研究（調査）の相補性

第2回： 社会調査の種類と方法

調査票を用いた調査の位置づけ，構造化インタビューと半構造化インタビュー

第3回： 調査テーマの設定

問題関心の重要性，研究の目的や意義の明確化，リサーチ・クエスチョンの導出，先行研究との対話，文献・情報検索の方法と実際

第4回 調査デザイン（1）

リサーチ・クエスチョンから調査項目へ，調査対象と調査方法の決定，サンプリングの考え方と方法，事例研究における事例の意味

第5回 調査デザイン（2）

調査票・質問文の作り方，回答選択肢の設け方，プリテストなど

第6回 調査の実施

対象者リストの作成，調査票の配布・回収法，調査ガイドライン
調査の実施：インタビューのルールとマナー

第7回 調査データの整理と分析

調査データの整理（エディティング，コーディング，データクリーニングなど）
調査データの分析（データとの対話，クロス集計，統計的検定，質的データ分析法へのガイド）

第8回 報告書の作成と公表

知見の文章化・図表化，公表における留意点，社会調査の社会的意味

第9回 調査票調査における倫理

対象者の人権尊重，説明に基づく同意，データのねつ造・盗用の禁止

第10回 中間テスト

調査票の作り方およびサンプリングの考え方に関わる問題

第11回 都市コミュニティ調査における調査票調査の企画・設計の実際

調査スケジュールの確認から，調査項目の調整と調査票作成までの事例紹介と解説

第12回 都市コミュニティ調査における調査票調査の実査での留意点

住民基本台帳の閲覧等のサンプリングから郵送，督促，苦情対応，回収までの事例紹介と解説

第13回 都市コミュニティ調査における知見の導出の仕方の実際

分析結果から解釈を導く際の、類似調査比較，地域の実情との比較等の事例紹介と解説

第14回 都市コミュニティ調査における調査対象地・協力者との関係の取り方

事前相談から，実査時の対応協力，結果報告の際の事例紹介と解説

第15回 まとめと期末レポート課題

事前・事後学習

- ・ 予習：教科書および参考資料の該当する章を予習しておくこと（1時間程度）。
- ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）。